

第2言語としての英語教育のイノベーションについての研究

Innovations in ESL

プロジェクト代表者：氏名 外山昇

(全学教育・学生支援機構英語教育開発センター長)

Noboru Toyama,

Director, Center for English Education and Development

1. 研究の目的

本研究の目的は、ESL の分野ですでに独創的な研究を推進している外国の研究者との共同研究を行なうことにより、イノベティブな英語教授法の研究を進め、その成果を埼玉大学の英語スキル教育における独自教材開発、言語習得理論に基づく CALL システム・コンテンツの改良に結びつける上で不可欠な、世界標準的 ESL 教育のイノベーションを視野に入れた、英語教育の諸問題の理論的解明をすることである。

2. 研究の経過

平成17年度に英語教育開発センター教員が参加した、第2言語としての英語教育のイノベーションをテーマとする2つの国際会議(香港での"Teaching English in Asia" Conference, アメリカ合衆国ウィスコンシン州立大学ミルウォーキー校での"Creative Approaches to ESL Instruction" Conference)において築かれた研究的パートナーシップを継続させ、平成18年度には、ウィスコンシン州立大学 Sheila Roberts 教授とともにアメリカ合衆国ウィスコンシン州立大学ミルウォーキー校で"Testing the Limits of Drama: Dramatizing Standardized Testing" と題した共同セミナーを開催した。セミナーにおいて、研究組織を代表してダイナ・ベケルマンが発音と発話能力の改善に資する演劇的パフォーマンスが ESL においてはたす役割についてプレゼンテーションを行った後、討議に参加した。また、このセミナーにおいては、英語教育における、具体的な文脈、状況を素材とした教授方法の有効性についても議論が交わされた。Lorie Goodman 助教授とともにペーパーダイン大学で開催された、"Technology in ESL Education"と題した共同セミナーにも、ダイナ・ベケルマンが参加し、埼玉大学が開発した CALL システムの独自性について発表するとともに、"Future Fantasies of ESL Education" と題した討議において、携帯電話のテクノロジー、インターネットにおけるインスタント・メッセージングが、第2言語として英語を学習する者の、コミュニケーション能力涵養のための機会と資源を与える可能性についても議論を深めた。

共同セミナーで得られた ESL の方法論の理論的仮説を実験的に検証するために、以下の複数のプロジェクトを埼玉大学において同時並行的に進行させた。

(1) "News Room" tutorial (担当 アドリアーナ・エドワース、リン・クラウス)

インターネットをたんに情報探査の手段とするのではなく、さまざまな事象に関する異なる意見を読み解き、実証的に議論を組み立てる技法を中心としてチュートリアルを行った。

(2) "One Act Play" tutorial (担当 アドリアーナ・エドワース、シーラ・カニンガム)

演劇的パフォーマンスの要素を英語教育に導入することにより得られる効果を測定する目的で、演劇作品の選

択、舞台指示と即興的表現の理解から、実際の演技まで、一幕劇の全過程を経験させるチュートリアルを実施した。

(3) "Researching target-language DVD-viewing and listening comprehension" (担当 デボラ・シャープ)  
映画等さまざまな内容の DVD の視聴が聴解力の向上にどのように寄与するかについて計量的な調査を行った。

(4) "Researching the links between extensive reading and TOEIC scores" (担当 デボラ・シャープ)  
TOEIC のスコア・レベル別に対象を設定した読解教材を学習することが、TOEIC のスコアの変化にどのように反映されるか、実証的な研究を行った。

(5) 埼玉大学 CALL システム (CL2EWS) のシステム改変 (担当 外山昇、鶴見精二)  
"Technology in ESL Education" での共同研究者との討議を踏まえ、聴解力を高めるための音声素材の新しい提示方法を考案して、埼玉大学 CALL システムの改修を行い、平成 18 年度に完了させた。

(6) 埼玉大学 CALL システム (CL2EWS) のコンテンツ開発 (担当 外山昇、鶴見精二、ダイナ・ベケルマン)

二つの共同セミナーでの成果を踏まえて、CALL1,CALL2 の教材改訂を行うとともに、CALL3 の教材を新規に開発した。

(7) Preparation for TOEIC 1 で使用する共通テキストの開発 (担当 外山昇、鶴見精二、ダイナ・ベケルマン、アドリアーナ・エドワース)

共同セミナーでの議論を踏まえて、埼玉大学で開講している Preparation for TOEIC 1 において使用する共通テキストにおいて発音と発話能力の改善に資する演劇的パフォーマンスの要素の導入、具体的な状況における表現能力の涵養を主眼とした教材の開発を行ったが、現在も継続中である。

### 3. 研究成果

#### ①論文

Dana Beckelman, "Still Trying to Walk the Talk: Feminism in the 21st Century Academy"

(Eloquor Vol.2 Issue 1, pp.2-7)

Deborah Sharp, "Thinking Outside the Grid: Towards a Better Understanding of TOEIC"

(Eloquor Vol.2 Issue 1, pp.8-23)

Adriana E. Edwards Wurzinger, "Drama: a Stepping Stone towards English Language Performance"

(Eloquor Vol.2 Issue 1, pp.24-38)

#### ② 教材

埼玉大学 CALL システム (CL2EWS) コンテンツ (CALL1,CALL2,CALL3)

#### ③ E-Learning システム

埼玉大学 CALL システム (CL2EWS) (2007 改修版) □